

ともに楽しむ

先日、人権や福祉に関する意識を高めることをねらいとして「啓発学習会」を行いました。例年行っていることですが、今回は車いすバスケットを楽しんでおられる方をお招きして、お話と実技を見せていただきました。6年生の子どもの中には実際に体験もさせていただいた子どももいました。私も少しさせていただきましたが、まず、真っ直ぐに進むことが難しく、バスケットボールどころではありませんでした。

車いすバスケットは、もはや障害を持つ人のスポーツではなくなってきているとのこと。実際、来ていただいた女性の方も健常者でしたが、プレーヤーでもありました。いろいろな大学にも、車いすバスケットクラブができていますのだそうです。

環境としてはずいぶんよくなってきているのかもしれませんが、先進諸外国に比べれば、まだまだ遅れているところも多いようです。障害を持つ人もそうでない人も無意識のうちにもスポーツを楽しむ国になってほしいですね。そんな国にしていくための心が子どもたちのなかに育ててほしいと思いました。

以下は、子どもたちのお礼の手紙です。

- 1年 きょうは、わざわざきてくださってありがとうございました。かつこよかったです。おみごとでした。スピードがすごかったです!!!
- 2年 どれだけふじゆうでもがんばってしっばいやこんなんをのりこえてできるんだなと思いました。わたしもまえむきになんでもがんばりたいです。
- 3年 ぼくはバスケットの話を聞いて感動しました。…お二人のバスケットがぼくたちや体の不自由な人に元気を与えるような気がしました。
- 4年 二人とも交通事故にあって車いすに乗っていますが、最初はどんな気持ちだったんだろと思います。私だったらずっと泣いていそうです。でも二人はずっと笑顔なのでいいなと思いました。
- 5年 車いすの人でも、あんなに楽しくスポーツができることに私もうれしく思います。…私はサッカーをやっています。二人を見て、とても勇気づけられました。
- 6年 私は、何事もすぐにあきらめやすいタイプで、できなかつたらやりっぱなしにして前に進めないことがありました。けれど、お二人の「あきらめずにがんばる。」という言葉聞いて、何事にもチャレンジしようと思いました。

本をたくさん読んだで賞

図書委員会の子どもたちが本をたくさん読んだ子どもの表彰をしました。テレビでやったので、表彰する方もされる方もすごく緊張しています。私は保健の先生や音楽の先生たちと職員室で見っていました。

表彰する方は、どうやって手渡したらいいかわからず、片手でポイツという感じで渡す子どももいます。でも、ちゃんと向きを変えて渡しているところは立派でした。される方は、読まれている表彰状を前からのぞき込んで見ている子どもや完全にカメラ目線になっている子どもなど様々でした。

なんだかとってもユーモラスで職員室の中では笑い声や拍手が起きたりもしました。放送室から出てきた子どもたち。みんなホッとしているようでした。